



としょかんだより



しもつけしりつこくぶんじしょうがっこう
下野市立国分寺小学校

暦の上では、8月7日に立秋となり、とつくに秋が来ている頃となっていますが、暑さ是一向に和らぐず、ゲリラ豪雨や夕立に悩まされる日々が続いています。夜が少しずつ長くなるこの時期、体のつかれをいやし、心を温かくしてくれるようなお話をを選んで読んでみましょう。



1 必読図書は、前期に読破しましょう！

- 夏休みに借りていた本は、学級の図書室利用の時間に、元あった場所をまちがえないように、番号をよく確かめて返してください。
- 必読図書は、ぜひ前期に読破(読み切り)しましょう。
- 後日、表彰する「多読賞」は、必読図書の読破が条件になります。
- 必読図書を読破すると、福田直美先生が、必読チェックカードをしおりにしてさせていただきます。

2 「わたしのすいせんする本」を書いて応募しましょう！

- 下野市立図書館より、友だちに読んでほしい本を選び、推薦する理由を用紙に書く「わたしのすいせんする本」の募集が来ています。
- 応募用紙は、担任の先生から配付されます。(1~3年生と4~6年生とで用紙が別になります。)
- 優れた作品には賞状と図書カードがおくれます。
- 提出された用紙は、返却されません。
- 校内では、10月11日(金)を締め切りとして、ふるって応募しましょう。

<国分寺小と児童書の歴史 3>

昭和56年、国分寺町立国分寺小学校から、国分寺町立国分寺東小学校が分かれ、開校しました。また、昭和58年には、体育館が竣工しました。

この当時、発行された児童書には、「ねずみくんのチョッキ(なかえ よしを)」「ぞうのババール(ジャン・ド・ブリュノフ)」「かいじゅうたちのいるところ(モーリス・センダック)」「くまのコールテンくん(ドン・フリーマン)」「はらぺこあおむし(エリック・カール)」「ノタン シリーズ(キヨノ サチコ)」「はじめてのおつかい(筒井頼子・林明子)」「ふたりはいつも(アーノルド・ローベル)」など、現在でも版を重ねて出版され、ロングセラーとして読み継がれている名作がたくさんあります。ちなみに、前回紹介した、昭和40年代から今回の50年代は、日本における絵本の黄金期と呼ばれています。ぜひ、親子で、また、おじいちゃんおばあちゃんといっしょに手に取り、同じ本を通して、子どもの頃のおもいでと共、コミュニケーションが深められればと思います。

<パラリンピックにちなんで>

8月28日(水)から9月8日(日)までの12日間、オリンピックに勝るとも劣らぬ熱気に包まれたパラリンピックが、パリで行われました。障害を抱えながら、健常者の選手同様、世界各国の選手としてのぎを削る活躍に、日本の代表選手達の華々しい活躍だけでなく、障害をもともせずスポーツに打ちこむ素晴らしさ・目標に向かって努力する姿の尊さに、胸が熱くなったことと思います。

国小の図書館にも、障害者や福祉関係の本がありますので、ぜひ読んで、パリ・パラリンピック本番の感動を思い出してもらえればと思います。

<題名>

パラ スポーツ ルールブック

ふかのう かのうせい
不可能とは 可能性だ

～パラリンピック金メダリスト 新田佳浩の挑戦～



